

平成29年第1回定例会町政執行方針

(平成29年3月9日～17日)

平成29年第1回定例会に当たり、町政執行に対する私の所信を申し上げ、議員各位をはじめ町民の皆さまのご理解とご支援を賜りたいと存じます。

私が、壮瞥町長として町政執行の重責を担い、早くも2期目折り返しの時期となりました。この間、温かいご支援を頂きました町民の皆さまをはじめ、議員各位に心より感謝を申し上げます。

「住民協働のまちづくり」、「人に優しいまちづくり」、「産業力向上のまちづくり」、「安全で住みよいまちづくり」のため、より多くの町民の皆さまからご意見を頂く機会を設けることのほか、11時間保育の実施や中学生までの医療費の無償化などの子育て環境の充実、各種ソフト事業を含めた定住対策事業など、これまで各種政策を展開して参りました。しかしながら、平成26年に日本創生会議が公表した人口減少社会の到来予想のとおり、日本全体の人口減少が進んでいることは国勢調査からも判明しておりますし、本町においても、人口減少に歯止めがかからないのが現状であります。社会減による一定程度の減少はやむを得ないとも思っていますが、減少のスピードを緩やかに抑えることができないものかと、今後も各種ソフト事業を継続し成果に結びつけていきたいと考えております。

昨年、12月22日に閣議決定された平成29年度政府予算案では、過去最高の97兆4,547億円となっておりますが、地方財源である地方交付税が2.2%減少の16兆3,298億円となっており、本町にとっては大変厳しい財政運営が続くものと予想しております。今後も、本町を持続させていくためには、老朽化が進んでいる上下水道施設などの社会インフラの計画的更新や、利用頻度の少ない公共施設のスリム化など、現在取りまとめを進めている行政改革大綱に基づく大胆な取捨選択に取り組む必要があるものと考えております。そのなかで、人口減少が進む本町にとって、現行のまま役場組織を継続していくことは難しいと思っており、短期間では無理なもの5年先、10年先を見越した職員数の抑制と併せ、

行政改革実施計画作成のための推進本部を設置し、将来に向けて設置課の数を大胆に減らすなど、組織機構の見直しを進めて参ります。その前段として、本年4月から総務課、企画調整課、税務財政課、会計課の体制を変更し、総務課の中に企画部門と財政部門を統合し、他の小規模町村の組織機構を参考とさせていただき、会計課に税務部門を統合することと致しました。現在の課長職は、課長職のまま参事として、担当課の中で業務を横断的かつ柔軟に対応していただくことを考えております。今後、本格的に行政改革に取り組んで参りますと、町民の皆さまにも一定のご負担を頂かなければ、施設を維持・管理していくことが難しくなることも想定しなければなりません。将来に向けて壮瞥町を継続させるためには、避けてとおることができないものと考えております。どうかご理解のうえご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

政府は、政権与党の高い支持率を背景として、積極的に各種政策が展開されていることは既にご承知のとおりであります。経済再生として一億総活躍社会の実現、官民一体での経済成長施策への重点配分、第4次産業革命などの推進、働き方改革の推進、そして財政健全化の両立を実現する予算として、過去最大となる予算を編成するなど、我国の経済再生に取り組む強い姿勢がうかがえます。

しかし、国会において昨年12月上旬にTPP＝環太平洋経済連携協定の承認と関連法が一括承認されましたが、去る1月20日に就任されたドナルド・トランプ＝アメリカ大統領は、TPPからの完全離脱を宣言し、交渉の永久凍結を指示するなど、TPP協定自体が発効されない可能性が高くなっております。このため、今後の日本経済に与える影響がどれほどのものかはわかりませんが、政府には、一億総活躍社会の実現に向け、人口減少が進む過疎地に目を向けていただく政策に期待をしたいと思います。

平成29年度に地方自治体に交付される地方交付税は前年度比2.2%減少するものの、臨時財政対策債は前年度比6.8%の増加となっております。

本町の平成29年度予算案では、これまでの交付実績を参酌し、普通交

付税で15億円、特別交付税で2億3千万円、臨時財政対策債で9千万円を予定いたしました。今後の日本経済の不透明感や地域経済の好転予想も難しいおり、引き続き健全な財政運営を念頭に置きながら、町づくりの基本となっている第4次壮瞥町まちづくり総合計画の進行管理・検証などを進め、町民の皆さまが安心して豊かさを感じることができる町づくりを目指していく所存であります。

昨年の執行方針の中で申し上げておりました、「壮瞥高等学校の老朽化の問題や中学校統合後の学校のあり方、老朽化している公営住宅の建て替え計画などについて、将来を見据えた方向性を平成28年度中に決定しなければならない。」としておりましたが、高等学校については、胆振西学区の生徒数の減少情勢を踏まえ、当分の間、老朽化は進んでおりますが一部修繕を図りながら現校舎での高校存続を進め、高校移転等の議論はしばらく状況を見た上で改めて検討させていただきたいと考えております。また、中学校統合後の学校のあり方や老朽化している公営住宅の建て替え計画については、中学校統合後6年間の内に補助事業による改築、若しくは改修の検討と併せ、公営住宅等長寿命化計画に基づく平成34年以降の建部改良住宅建替え建設場所の設定の時期が迫っていることや、いずれも多額の事業費になることを踏まえ財源対策の見通しを定める必要があることから、更に検討を進めた上で改めて一定の考え方をお示しし、議員の皆さまとも協議を進めていきたいと思っております。

平成26年度から取り組んできました定住対策事業において、一定程度の事業効果があったと認識しておりますが、人口減少に歯止めがかからない状況が続いております。人口増加に向けた画期的な方策も思い描くことはできませんが、継続して各種ソフト的な助成制度を広くPRするなど、定住政策に取り組んで参ります。老朽化が進んでいた仲洞爺団地については、昨年末に用地買収を終えることができたことから、本年度から平成31年度までの3ヶ年で3棟12戸の建設を進めるほか、有珠山噴火災害時等を考慮し、避難路としても重要な路線となる町道滝之町中島1号線の道路改良工事に着手いたします。平成29年度は主たる大型の事業がない中で、予算規模が大きくなっておりますが、前年度当初予算との対比事業

費ベースで、幌別硫黄鉱山中和処理で6,550万円の増加、民間大規模建築物耐震改修で2億5,190万円の増加、橋梁改修と滝之町中島1号線道路改良などの道路新設改良で5,880万円の増加などの他、各施設等の保守管理経費の増加要因により、当初予算での収支不均衡額が1億9千万円となることから、財政調整基金などの財源を充てることとし、限られた自主財源を有効活用することを念頭に、有利な補助金・交付金制度の活用や過疎債ソフト事業の活用を含めて予算編成をさせていただいたところであります。

その予算編成の概要について、ご説明申し上げます。

平成29年度の予算規模は、一般会計歳入歳出予算総額では、40億2,400万円で、対前年度当初と比較して2億5,800万円、6.9%の増加。5つの特別会計の合計は13億5,980万円で、対前年度当初と比較して1億2,280万円、9.9%の増加。一般会計、特別会計の総額では、53億8,380万円で、対前年度当初と比較して3億8,080万円、7.6%の増加を見込んでおります。

一般会計歳出について、経費別に申し上げます。

人件費では、平成28年度退職者数に対し採用者数の抑制や共済組合納付金等の減少などにより、対前年度比3%の減少を見込んでおります。

物件費では、ふるさと納税特産品などの増加分もありますが、LED照明導入調査やスクールバス購入などの減少により、対前年度比6.2%の減少を見込んでおります。

維持補修費では、森と木の里センター周辺部分の修繕や各温泉施設の修繕、町道の維持修繕などの増加により、対前年度比14.7%の増加を見込んでおります。

扶助費では、近年増加傾向にあります医療扶助費や障害者の訓練等給付扶助費等を勘案し、対前年度比1.8%の増加を見込んでおります。

補助費等では、西胆振消防組合が整備する消防車両の更新等の増加分もありますが、平成25年度から4年間実施しました農業生産性向上対策事業の終了や西いぶり広域連合負担金等の減少により、対前年度比2.5%の減少を見込んでおります。

建設事業費では、民間大規模施設耐震改修や町道中島1号線道路改良、仲洞爺団地整備などの増加により、対前年度比42.1%の増加を見込んでおります。

一般会計歳入では、自主財源である町税収入において、インバウンドの増加傾向による景気の持ち直しにより町民税で対前年度比7.6%の増加を見込み、町税全体では対前年度比1.1%の増加を見込んでおります。

地方交付税では、平成28年度に交付された普通交付税交付額16億4,461万円と、当初予算額16億円との比較で4,461万円の増額となっておりますが、国の平成29年度地方財政計画で対前年度比2.2%の減少となっていることや算定基礎人口の減少等を考慮し、15億円を見込んでおります。

なお、繰入金では、財政調整基金繰入金について対前年度比42.9%増加の1億9千万円を見込んでおります。このため、平成29年度末の基金残高は約18億1千万円になると予想しております。近年継続して財政調整基金繰入を行う予算編成となっておりますことは、大変厳しいことと認識し、行政改革に取り組まなければならないものと、改めて認識したところであります。

費目別と特別会計の説明につきましては、先の所管事務調査の際にご説明申し上げておりますので省略させていただきますが、人口の減少は今後も一定程度続くものと思っておりますし、増加に転じさせることは至難なことと思っております。人口増加に向けて多方面の皆さまにご意見を拝聴させていただくことができれば、有効なものは政策に反映させていきたいと考えております。将来に向けて壮瞥町を継続することができるよう、また、町民の皆さまが安心して豊かさを感じながら暮らせるまちづくりに、全力で取り組んでまいりたい決意であります。

議会議員の皆さま並びに町民の皆さまに、今後とも一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます、説明とさせていただきます。